

奈良巡検報告

お茶の水地理学会発足 25 周年記念
奈良巡検に参加して

石原 淳子

恒例の「気軽にエクスカーショ」の初の 1 泊巡検は 9 月 29 日（土）正午、近鉄京都駅集合から始まりました。事前にいただいた名簿に数名の顔見知りはいましたがほとんどが初対面の先輩後輩 1 回生から学部 4 年生まで（年齢差 56 歳）、果たして無事会うことが出来るのか、不安のスタートでした。しかしそんな心配は無用、いかにも旅慣れた私たちの行動的な雰囲気メンバーがあつという間に集合し、田宮先生もいらしてすぐに全員が打ち解けました。

次の集合場所の西大寺駅ではこの巡検をコーディネートしてくださった奈良女子大の内田先生、関西在住の地理学科 OG、奈良女子大旧地理学科同窓会「明日香」の皆さんとさらに合流。総勢 42 人になりました。

小雨の中、徒歩で平城宮跡に。ここで内田先生がこの 2 日間の巡検の概要を話され、大

きなダンボールから地図・各施設や市町村のパンフ・文献のコピーなど完璧な資料セットを各参加者に配られ一同驚嘆の声を上げました。

平城宮跡には発掘の様子が再現されている資料館、復元された朱雀門・庭園などが広い敷地に点在しています。敷地内を近鉄奈良線が横切っているのも列車から見たことはあったのですが歩いてみるとその規模は想像以上でした（甲子園球場 30 個分）。

平城宮跡からバスで奈良女子大へ。記念館前で全員の記念写真を撮りました。29 回生は 1 年次の巡検が京都奈良だったので 2 度目の訪問となり 30 年前と変わらない佇まいに感無量でした。

内田先生のご案内で奈良町の古い町並みを歩き奈良女子大のセミナーハウスになっている町屋を見学、夕食まで自由解散になりました。荒れていた町屋を交流・研究の場とするために修復しながら活用していて、当日は東大の建築学科の学生が作業をしていました。大学が市街地に歴史的な研究施設を確保すると



写真 1 奈良女子大学の記念館（重要文化財）前での記念写真

いうのは大変うらやましく今後の使い方に興味が湧きました。

夕食には奈良女子大の松本先生、「明日香」の1期生もみえて大変楽しい交流の場となりました。大学や年代が違ってもお互いに全く違和感がなく、旅行や巡検の話題ですぐに親しくなれるのがとても不思議でもありうれしくもありました。最後にお茶大校歌「みがかずば」をご披露しました。

さて2日目は 天理大学教員の倉光さん(45 回生)のご紹介で天理教協会本部の「親里おぢば」を見学することが出来ました。天理の駅からの商店街の様子も独特で、全国からの信者向けお土産店(菓子、漬物など)、天理教のグッズ(衣服や祭礼用品)の店が飲食店や洋品店の間に点在し門前町を形成しています。ここでも日用品の店のシャッターが目立ち、郊外のショッピングセンターに客を奪われているのがわかります。

本部は「おぢば」という神殿を中心に東西南北に大きな礼拝場が建ち、それに付随する施設が立派な木造の廊下でつながれています。どこも木目が浮き出るほど磨きこまれ塵ひとつありません。廊下のところどころに山盛りの雑巾の箱があり、黒い法被の信者はいつでも掃除をしてご奉仕をすることができます。「おぢば」の中心には「かんろだい」と呼ばれる六角形の柱が立っておりその上は吹き抜けになっています。信者はこのかんろだいに向かって礼拝をおこないます。合計3157 畳敷きの畳に響く伸びやかな歌と手振りが印象的な祈りの風景でした。今回は倉光さんのおかげで信者でもない一行がかんろだいのかなり近くまで行くという貴重な経験をさせていただきました。

このおぢばを中心とする親里を城壁のように8町(870 m)四方を瓦屋根を葺いた鉄筋の建物で囲むという計画があり、病院・天理大学・博物館などが並んでいます。全国から集まる信者の宿泊施設も体育館も鉄筋の瓦屋



写真2 今井町の町並み

根葺きで「千と千尋の神隠し」のような国籍不明の景観で、異国に迷い込んだ錯覚に陥りました。

午後は江戸時代の環濠集落保存の今井町です。ここも30年前に巡検でたずねた町で所々荒廃している印象がありました。93年に国の重要伝統的建造物群保存地区になり整備が進んでいます。電線の地中化、道路の舗装も茶色い「地道」風にするなど江戸の面影を再現し、環濠内の760戸のうち4分の1が修復されました。ある商店はサッシや鉄製の看板を取り外し、格子・むしこ窓の入った「つし2階」にするなど昔の姿へと戻したそうです。関東でも川越や佐倉に見られるような努力が観光客の誘致、町の活性化につながっているのがうれしくなりました。

一日半の巡検でしたが内田先生の周到な下見とご案内で大変密度の濃い時間になりました。たった五分の電車の乗換えに一団となって階段を駆け下り、駆け上り一人の迷子もなく行動できたことはさすが地理学科と感心しました。日帰り巡検では味わえない参加者同士の深い交流も大変貴重な産物です。お世話くださった内田先生、事務局の須野原さん、倉光さん、ありがとうございました。

いしはら・じゅんこ

お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業
(29 回生)